

8 問題点や改善点を整理する

☆評価が持つ本来の機能

評価が持つ本来の機能として、「学習者である生徒が学習の到達状況を把握するもの」、「授業者である教員が学習指導の見直しにつなげるもの」という二つが挙げられます。これは、生徒自身が自分の学習を振り返って、何が身に付いているか、どこが不十分であるかが分かり、学習の改善に資するものであるということだけでなく、教員・学校が学習指導や教育課程の在り方を問い直す情報として活用することを意味しています。

評価結果を受け止めよう

生徒の提出物を評価したとき、こちらが意図したものとは違う解答ばかりで、求めているものとは異なることがあったとします。そのとき、皆さんはどのように感じますか。「どうして理解してくれないのだろうか？」と考えたことはありませんか。

そのようなときは、生徒に提出を求めた課題について客観的に考える必要があります。課題への取組状況は、教員が実践した授業の成果を表しています。自分の教え方に原因があったのではないか、設定した目標が生徒の学習状況と一致していなかったのではないかと振り返ることが大切です。

そして、そのような結果になった原因を探り、次には生徒の学習状況に合った課題を用意することで、より良い授業づくりにつながります。

評価結果を分析しよう

より良い授業づくりのために、前述の例で考えると、「提出物に書かれたものは、なぜ、教員が意図したものと違う解答ばかりなのか」について分析する必要があります。

その理由として、授業が分かりにくくて理解できなかった、適切な発問がなされなかった、学習の内容が難しくて分からなかった、書くための時間が不十分だった、書き方が分からなかったなど、様々な要因が考えられます。

生徒の実態から、原因を追求し、問題点や改善点を整理しましょう。

個別支援が必要な生徒への対応を考えよう

生徒の様子にヒントがある

授業観察の際には、生徒の取り組んでいるあらゆる様子から、その意味を把握しようとするのが重要です。寝ている生徒、ボーッとしている生徒、その場にそぐわない発言をする生徒、おしゃべりする生徒、このような生徒はやる気のない生徒に見えます。しかし、なぜそのような行動を取るのでしょうか。「分からない」と言えないために静かにしている生徒に目を向けることも授業を分析する大切な視点です。



自らの指導を振り返るチャンス

ワークシートに書かれた生徒の解答を見て、「生徒への指示が適切だったか」「事前の指導で理解させるべきことが徹底できていたか」などと、自分の指導をもう一度振り返ってみましょう。

〈例〉 「理科・化学」

理科・化学ワークシート
「実験で観察した化学反応についてまとめなさい。」

化学の授業で、実験後、このようなシートを提示し活動をさせたところ、生徒は様々な解答を書いています。

生徒A
の場合
希塩酸を加えたら、液体が白く濁り、試験管の底に沈殿が生じた。

生徒B
の場合
実験で見た化学反応は「 $\text{Ag}^+ + \text{Cl}^- \rightarrow \text{AgCl} \downarrow$ 」だと思う。

生徒C
の場合
よく分からない。

観察した生成物の色や反応の様子を記述したり、観察結果を化学反応式で説明したりと、記述の仕方がバラバラだということは、指示の仕方を反省する必要があるということです。ワークシートにも課題があるかもしれません。

また、生徒Cが「よく分からない」と解答した理由も考えます。実験の内容が分からないのか、うまく観察できなかったのか、ワークシートの書き方が分からないのか、時間がなくて分からないと書いたのかなど、いくつかの理由が考えられます。

これらの反省点を授業づくりにいかすようにしましょう。



探究の道しるべ

- ① これまでに自身が作成したワークシートの中から、左の〈例〉「理科・化学」のワークシートのように、生徒の解答が分かれてしまった設問がなかったか、振り返りましょう。
- ② ①のような解答があった設問は、答えの方向性を整えるために、問いかけ方をどう改善すると良いのか、考えましょう。
- ③ ①のような解答が見られない設問は、自身がどのように工夫をしたためなのか、客観的に分析しましょう。

R-PDCAサイクル②

(4章-7から続き) 振り返りは実践した授業や研究活動を評価する活動にあたり(Check)、身に付けさせたい力が育成されたのかを判断します。生徒のワークシートや振り返り、作品などを資料として結果の分析を行います。そして、その評価結果を分析して次の授業づくりへつなげ、次年度へ向けた研究活動の改善を行います(Action)。

各学校における育てたい生徒像を再確認し、次の取組の視点を明らかにしていきましょう。